忘れられない日

1945.3.10

「東京大空襲」

3月10日

私達下町の者にとって忘れることの出来ない日です

このアルバムはそのごく一部の浜町2丁目付近

特に明治座でのことを経験者として

残しておきたいと思い

稚拙な絵，文章ですが

戦争によって一般市民がうける恐ろしさを

少しでも分かっていただけるのではと

つくってみました

線路に落ちた焼夷弾の火が
銀色のレールに映り綺麗だった

サイレンの音で飛び起き

暗い中で慌てて身支度し表にでた途端

おもわず「ワー綺麗！」と

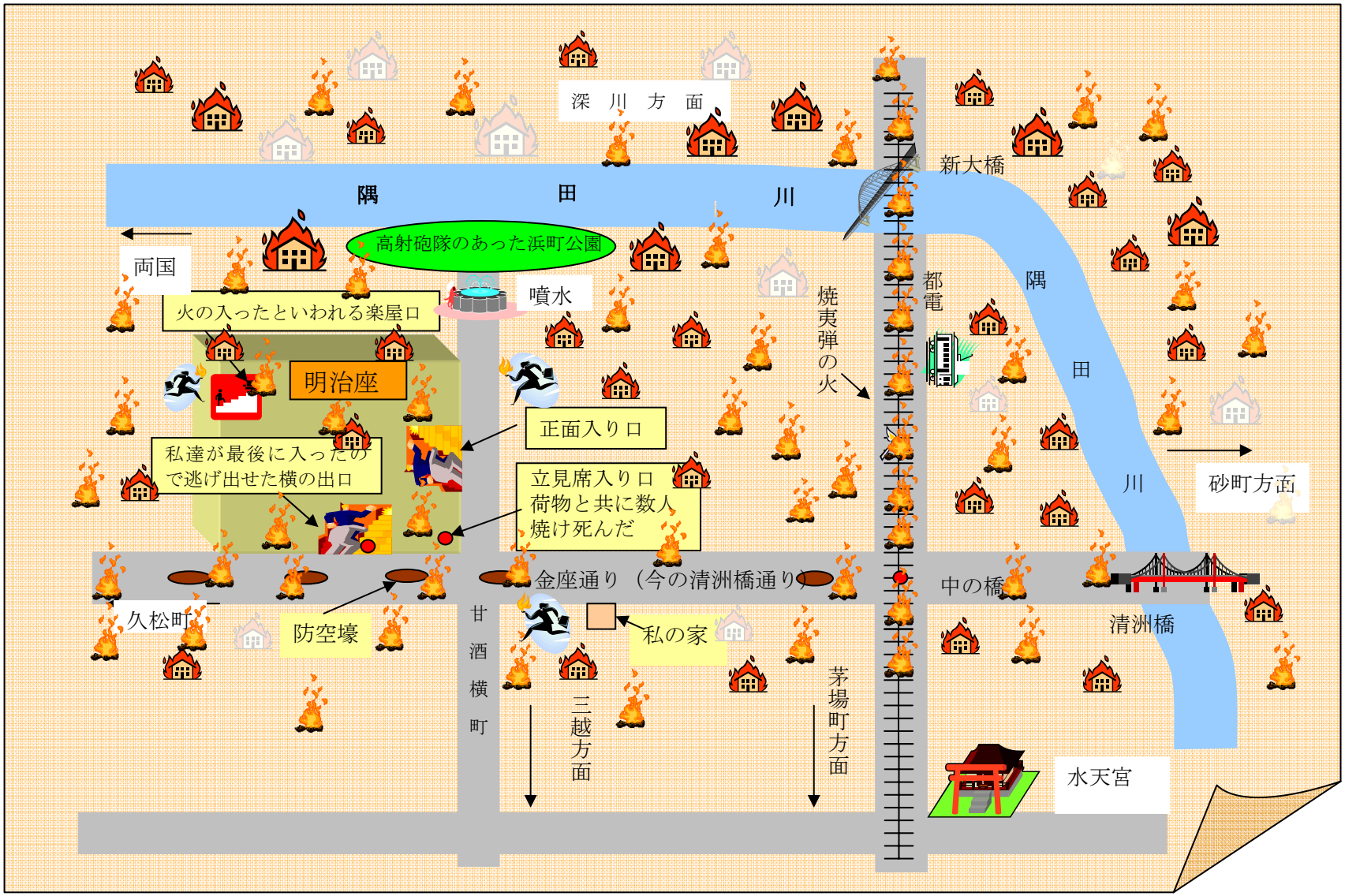
不謹慎にも叫んでしまった。

中の橋の都電の線路に

焼夷弾が一直線に落ちていて

銀色の線路に映り

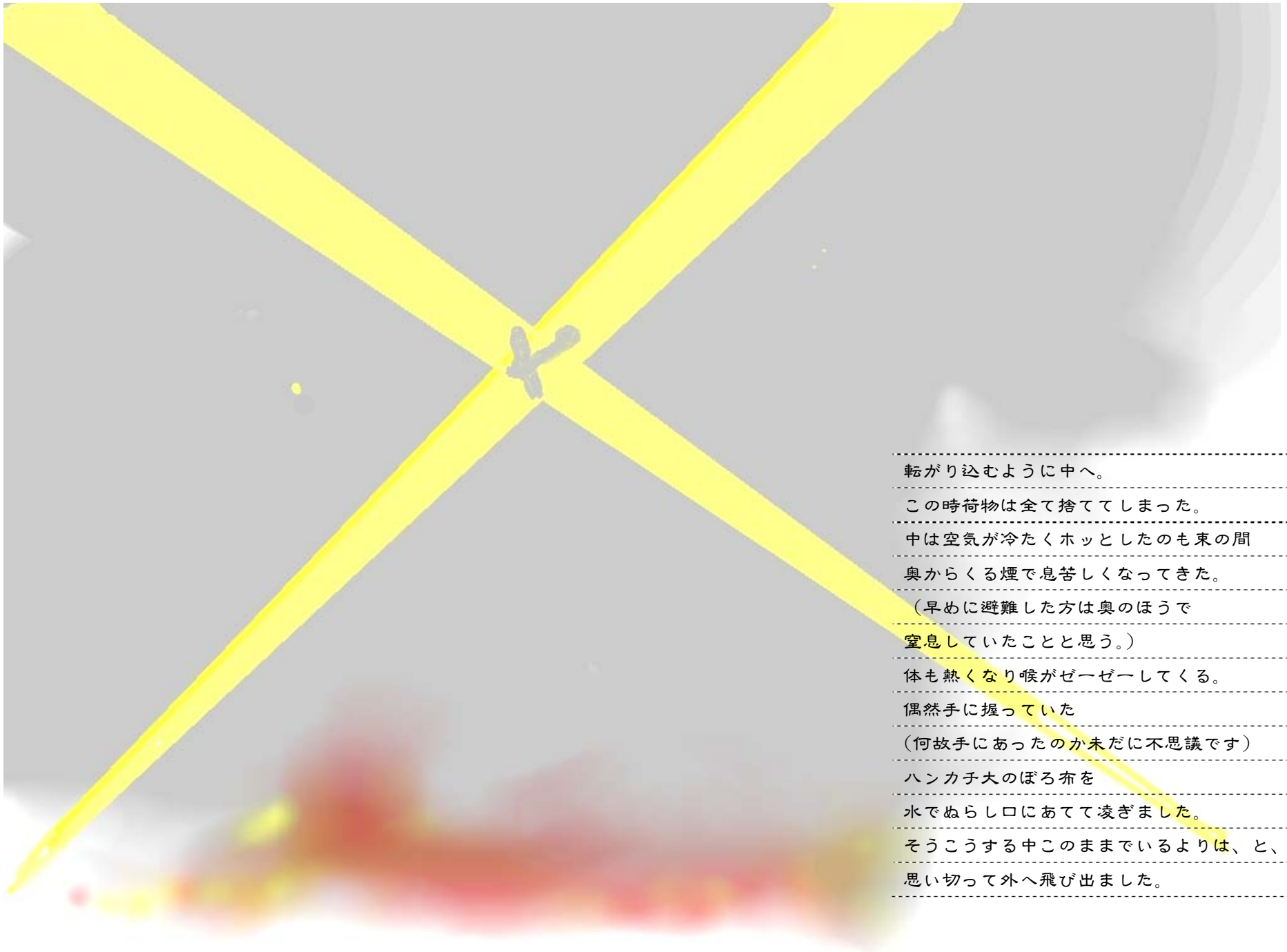
赤く耀いて凄くきれいだった。


深　川　方　面
隅　田　川
新大橋
高射砲隊のあった浜町公園
両国
噴水
火の入ったといわれる楽屋口
明治座
焼夷弾の火
都電
隅
田
川
正面入り口
私達が最後に入ったので逃げ出せた横の出口
立見席入り口
荷物と共に数人焼け死んだ
砂町方面
金座通り（今の清洲橋通り）
中の橋
久松町
防空壕
甘酒横町
私の家
清洲橋
三越方面
茅場町方面
水天宮

明治座近辺の略図

物凄い風と煙でどの方面に逃げたらよいか
見当が付かなくて皆右往左往しながらも
やはり避難所になっていた明治座をめざし
人々は駆けて行きました。
私もリュックサックを背負い両手に荷物を持ち
お位牌，過去帳、写真を数枚懐に突っ込み
明治座にたどり着きましたが
もう扉がしまってはいれません。
熱風で顔はピリピリしてくるし
火の粉はふってくる------。
此処で焼け死ぬんだ　と覚悟をした時
中にいた在郷軍人の方が
はいれ！と扉をあけてくださいました

誰かが
非国民！！
と叫んでいた
荷物をうんで逃げてゆく人
消火にゆく人
明治座へ避難しにゆく人
カーン カーン
と焼夷弾が
二三ヶ
おちてくる



転がり込むように中へ。
この時荷物は全て捨ててしまった。
中は空気が冷たくホッとしたのも束の間
奥からくる煙で息苦しくなってきた。
（早めに避難した方は奥のほうで
窒息していたことと思う。）
体も熱くなり喉がゼーゼーしてくる。
偶然手に握っていた
（何故手にあったのか未だに不思議です）
ハンカチ大のぼろ布を
水でぬらし口にあてて凌ぎました。
そうこうする中このままでいるよりは、と、
思い切って外へ飛び出ました。

外は火の海！
内は煙と熱気！
階段を十段程
おりた地下に
水道が一つあり
鉄兜に水をため
頭から二三杯かぶっても
すぐカラ〳〵に乾いてしまう
消火作業に疲れ果てた兄に
鉄兜に水を入れ運んではかけ
運んではかけ……
その中階段には水を求めて来て
室息してしまった人々が倒れて
足のふみ入れる処もなく
申わけなく思いつつもその上を
踏んで運びつづけた
あの感触、
今も忘れられない

そこはまるで地獄のようでした。防空壕の中は煙と熱気で
殆どのかたが亡くなっているらしく、
強風で飛んでくる燃えている板やトタンを
避ける場所も無くその場にうずくまっていました。
小さい火の粉でもパッと燃え上がり、
自分の背中や髪の毛が燃えても
周りが熱くなっているので気が付きません。
お互いに消しあいながら夜をあかしました。

防空壕といっても道路の
一部を掘って盛り土をしただ
けの頼りないものでした
中は入ったことが無いので
しりません

物凄い風で
赤く焼けたトタンや
燃えた材木等が
飛んでくる
防空壕の中は
入ってはダメ！
中の人はむしやきに
なってるゾ！
空気全体が熱くなってる
けし粒程の火の粉がきても
パッと燃え上る
赤ちゃんが燃えていても
気づかないお母さん
頭巾の紐が片結びで
ぬげない！
目鏡は
飛ぶし！
熱いし！
大変！

明治座の立見席入り口には

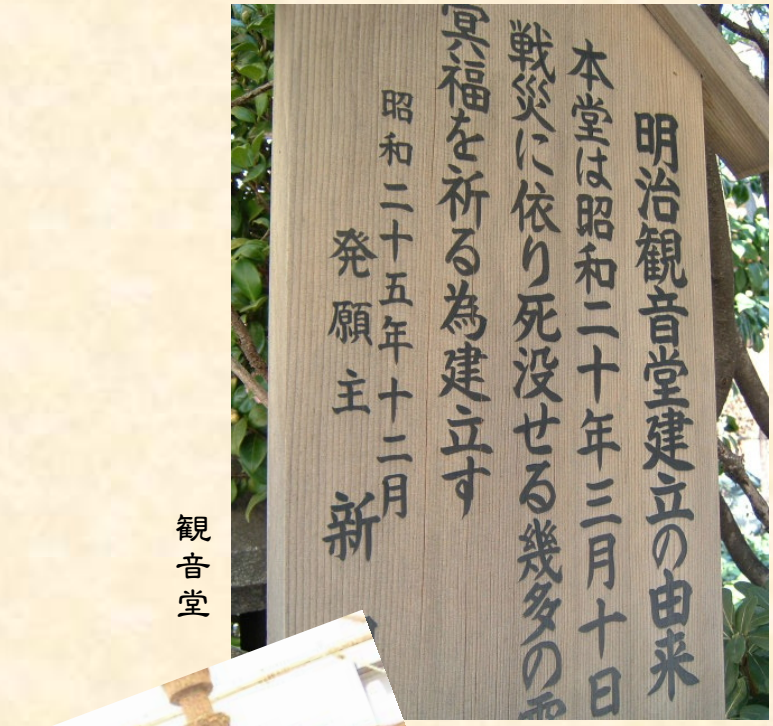
荷物を積んだリヤカーや自転車のため

身動きできず焼け死んでゆく人人が

まるでまつぼっくりが燃え尽きて行くように

段々小さくなってゆくのが

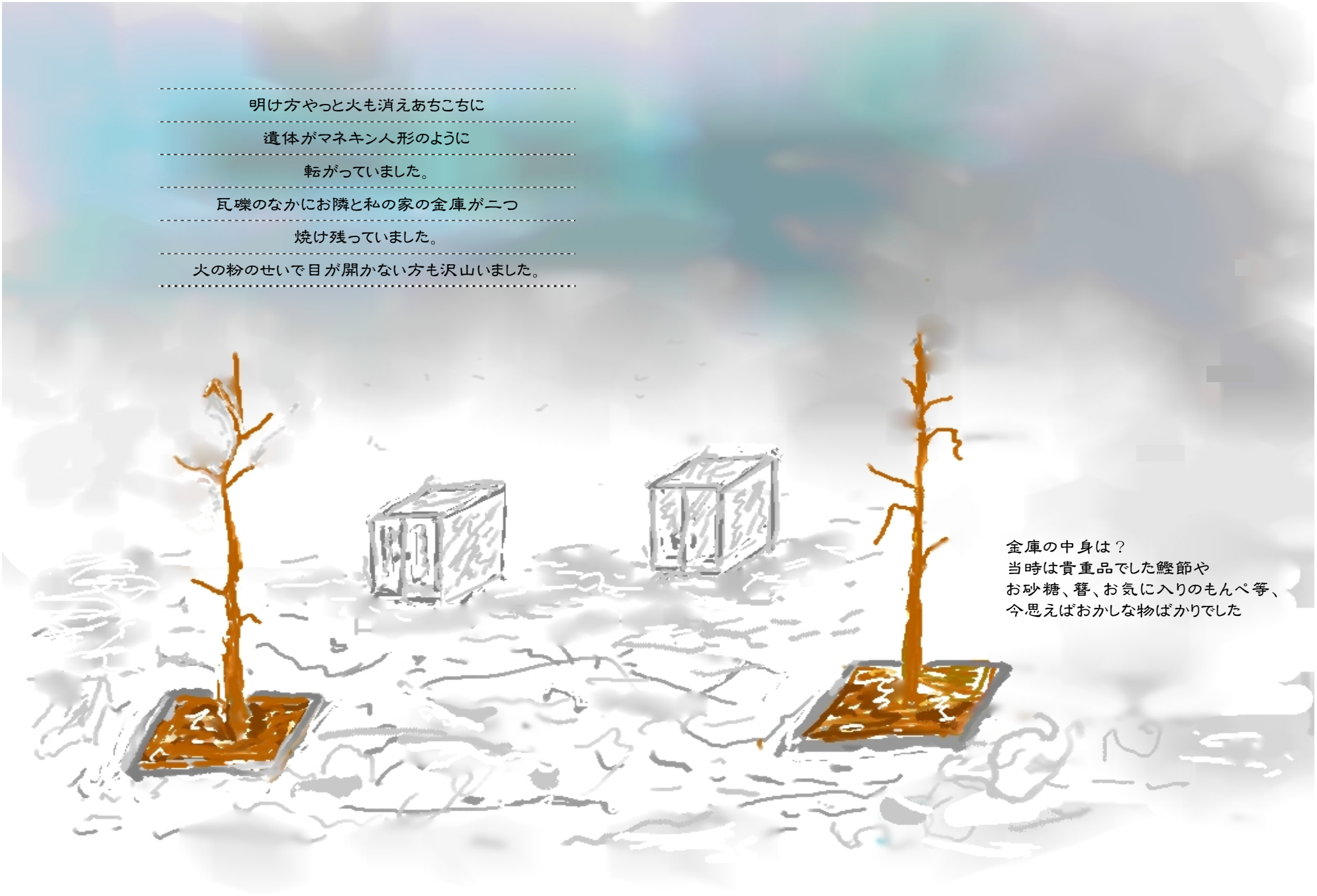
目に焼きついています。



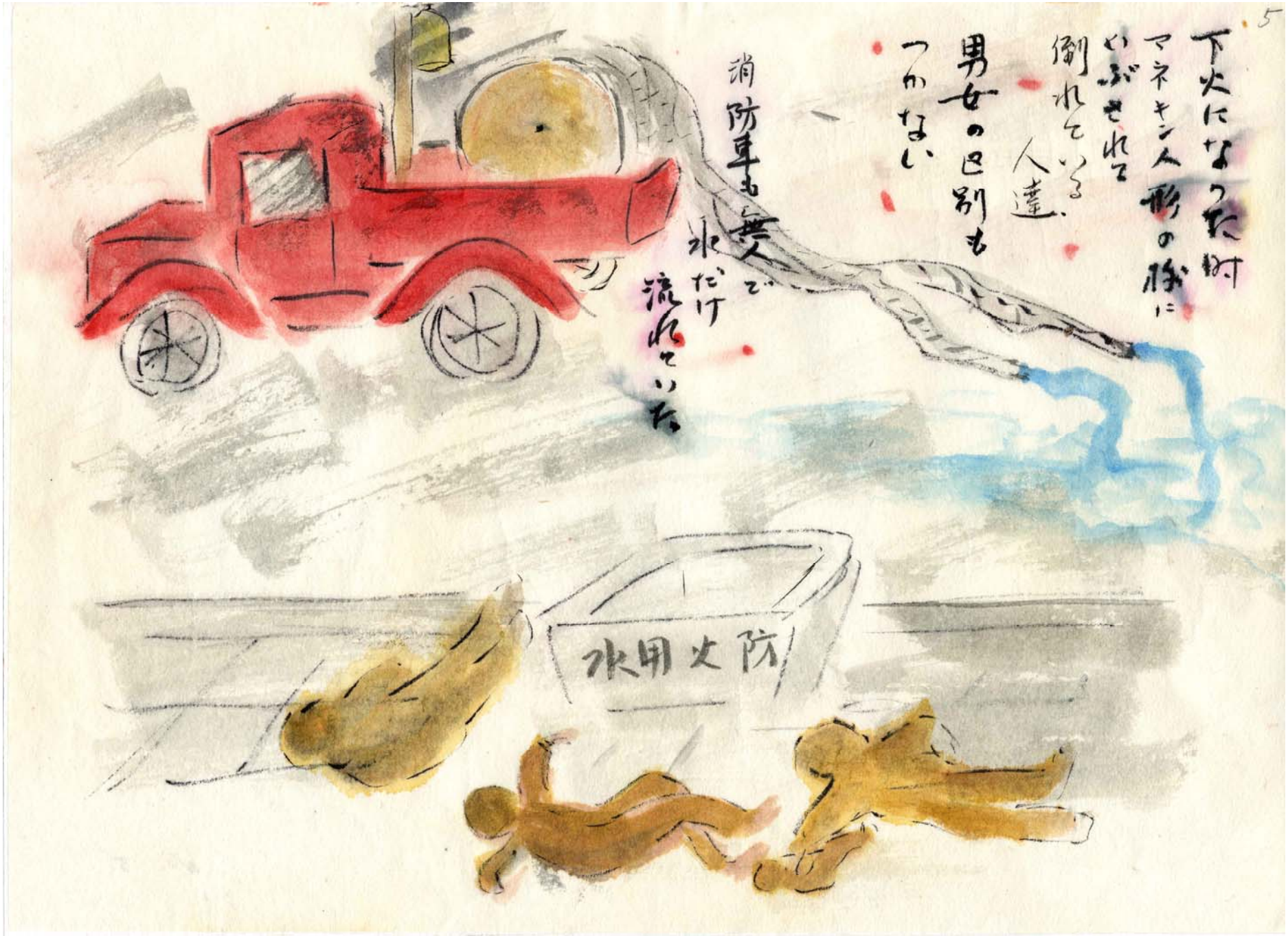
観音堂

4
明治座の
立見席の
入口辺り
はじめは十四五人の人影と
りやうの自転車等
一塊に見えた
人影が
だんだん先に
つゝまれ
だんだんふさ
なってゆく
蔭で
身動き
出来ない
遂に車の骨だけ
残り
人影も
なくなって
しまった

明け方やっと火も消えあちこちに
遺体がマネキン人形のように
転がっていました。
瓦礫のなかにお隣と私の家の金庫が二つ
焼け残っていました。
火の粉のせいで目が開かない方も沢山いました。



金庫の中身は？
当時は貴重品でした鰹節や
お砂糖、簪、お気に入りのもんぺ等、
今思えばおかしな物ばかりでした


5
下火になった時
マネキン人形の様に
ぶらさげて
倒れている人達
男女の区別も
つかない
消防車も
水だけ
流れていた
水用火防

知人の家に一晩泊めていただく為
日本橋、銀座を歩きましたが
グニャグニャにねじれた白木屋や
服部時計店のシャッターに
血を滲ませた包帯をして
放心状態で寄りかかっている
人々を沢山見かけました

あ　と　が　き

現在の公園

思い出に、と、書いてみた絵を先生がご覧になって
アルバルにしてみましょうということになり
あつかましくもつくってみました
下手な絵と文章ですが試行錯誤の連続で難しく
先生のご助力を頂いてどうにか完成いたしました
10日未明の空襲で九死に一生を得た私に残ったものは
お位牌と少し角の欠けた過去帳と
あのハンカチ大のボロ布だけでした
　何故手に有ったのか今でも不思議です
神仏のご加護かとおもっております

2004.7.1　菊元栄子

当時の私です
友人から譲っていただいた
唯一のものです

今のグラウンド

運動会や浜町音頭大会等で
楽しんだグラウンド、
当時は高射砲隊が有って
下火になってから一時
休憩さしてもらいました